

一般質問通告書

受領日時 令和 7 年 5 月 28 日 (午前)・午後 10 時 25 分 5 番 氏名 中村 司

質問項目	質問の要旨
1.町デジタル専門 監採用について	(1) 町では専門監からの助言などを受けながら、デジタル技術の活用により、行政事務の効率化や経費節減、住民サービスの向上などを図るとしている。本年 3 月定例会において椎名議員の質問に対し、3 月末までに専門監から報告を頂くことになっており、後日お知らせするとの答弁があった。また 4 月 14 日には専門監 3 名に増員された。当町の規模（人口 7,739 人職員数 130 人内外）の自治体では、具体的にどのような効果が見込まれるのか伺う。 (2) 庁内ではデジタル化責任者である副町長や関係職員を対象として勉強会を実施し、職員のデジタルスキルアップに努めているとのこと。第 7 次行政改革推進プログラムには「行かない役場」「書かない窓口」ともある。高齢化が進む当町において、利用者である町民への丁寧な説明と理解を得ることが必要である。町の考えは。
2.町外人材及び民間 活力の活用について	(1) 昨年、JICA と「海外協力隊派遣前に関する連協協定」を締結し、地域おこし協力隊インターン 4 名を受け入れした。今年もインターン 8 名分として委託料として 10,940 千円を計上している。委託先はどこで、委託決定理由は。また町が考える本事業の目的と効果を伺う。 (2) 本年 4 月、町集落支援員に(有)ジュディから 4 名、浅見内活性化委員会から 9 名を任命、着任とあった。任務は集落の生活機能の維持や地域活性化などを図るため、集落点検や住民の交流促進、買い物支援などに取組むとある。本年度、委託料として 6,250 千円を計上している。(有)ジュディと浅見内活性化委員会を任命した理由、また具体的な活動内容と町が期待する効果を伺う。

	(3) 専門的な知識や経験、人脈などを活用し、プロジェクトをマネジメントするブリッジ人材を重要プロジェクトの責任者として市町村が任用する「プロジェクトマネージャー制度」がある。(令和6年度 104市町村、114名) 秋田県にかほ市では市内唯一の高校の魅力化を図り、地域と連携した特色ある学校として存続させるため「仁賀保高校魅力化プロジェクト」を立上げ、現在活動中との事例である。 地域おこし協力隊、プロジェクトマネージャーについては、3大都市圏をはじめとする都市地域からの住民表異動した者と「対象者」の制限はあるが、集落支援員については制限がない。いずれも特別交付税措置があり、実質財政上の負担がないことになる。 人脈を活かした企業版ふるさと納税推進、企業誘致活動、特産品開発と地域おこしなどが考えられると思う。3月定例会でも、椎名議員から、職員不足、人材不足を補うためにも、民間の知恵や力、外部人材を活用すべきとの提言があった。 荒川町長就任3ヶ月が経過、庁内の強み、弱みを大分把握出来たころと思う。当町の課題解決に向け、地域外人材、民間活力活用の考えを改めて伺う。
3.街路樹のあり方について	本年度予算で、街路維持補修事業 11,630 千円（内、公共樹木管理委託料 4,455 千円、街路樹根上がり対応工事 4,994 千円）を計上している。厳しい当町財政にとって少ない金額ではない。本工事については前年度も実施しており、「欅」の特性から今後も街路維持管理には多額の費用を要することとなる。沿線住民の一部からは、伐採を求める声があることも事実。根上がりによる段差で通学児童が転倒、ケガする事案もあったと聞く。街路樹のあり方について町長の考えを伺う。

4.五城館の改修計画について	3月定例会町長施政説明において、五城館多目的ホール及び厨房部分の改修についての調査結果の報告があった。同館多目的ホール改修に46,000千円、厨房拡張には32,000千円の概算設計額が、工期は6ヶ月程を要することが判明との内容。 現在、五城館は指定管理者として㈱あったか五城目が管理、指定期間は令和9年3月31日までとなっている。本年度は指定管理料20,640千円計上している。令和5年度には、コロナ禍や大規模水害発生を主因とし業績悪化、資金繰り改善支援として、同社長期借入金返済分として町から17,300千円の支援を行っている。 五城目町総合交流センター五城館は当町玄関の顔であり、また今となっては大きな会議・イベント開催と併せて懇親会（飲食）が出来る唯一の公共施設である。しかし、人口減少が進む当町において、その役割、位置付け、費用対効果など、総合的に勘案し、計画については、慎重に判断すべきと考える。 本件に対する町長の考えを伺う。
-----------------------	---

